

理学系研究科サマーインターンシッププログラム

UTRIP

世界の大学生に魅力的な夏休みを提供する新たな試み

今、東大の最重要課題とも言える「国際化」。

そのためには、世界中の優秀な学生を呼び入れる

体制が必要です。理学部では、先鞭をつける形で、

学部生のサマースクールを開始。海外から来た学生たちは皆、

目を輝かせて「東大での夏休み」を満喫していました。



UTRIPとは?

海外有力大学に所属する大学生(学部学生)を対象とした6週間の「大学院理学系研究科サマー・インターンシップ・プログラム」。東京大学や大学院理学系研究科への留学に興味のある海外学生に、講義や研究室での活動を通じて、日本での留学生生活を体験してもらおうという企画です。大学院理学系研究科・理学部における国際化を推進することを目的としたもので、今年度から始まった全学初の試みです。



UTRIPセレモニー時の記念写真。海外の大学生20名が参加した



【重点テーマ別行動シナリオ】 の以下の達成目標に対応!

1.学術の多様性の確保と卓越性の追求

■ 国際発信力を強化し、総合研究大学としての国際的プレゼンスを高め、大学間連携や学術を先導する。

2.グローバル・キャンパスの形成

■ 世界から人材の集うグローバル・キャンパスを形成し、構成員の多様化を通じ、学生の視野を広く世界に拡大する。学生にとって世界全体がキャンパスともみなしうる体制を整える。

■ 教育・研究における国際連携を戦略的に進めるとともに、国際的発信インフラを整備する。

4.「タフな東大生」の育成

■ 全ての学生が、豊かな教養と深い専門性を備えた人材になるようにする。特に、海外体験・異文化体験を通じ、コミュニケーション能力や行動力を身につけさせる。

[例: 国際的な活躍に支障のない語学力の習得などを旨とする。]

■ 多様な学生構成の実現により、相互に切磋琢磨する教育環境をつくる。



【部局別行動シナリオ理学部】 の以下の項目に対応!

2.学部教育の国際化

学部学生が国際社会で活躍する能力を涵養するための教育を充実させる。このために、1) 学部学生向けに英語で教育するプログラムを導入し、英語による討論、発表、論文作成能力を強化する。2) 東京大学では、グローバル30の一環として、教養学部を中心に、留学生主体の国際教育コースの設立を目指している。これを理学部にまで拡張し、英語のみで学士を取得できる国際広域理学コースの設置を目指す。この中で、留学生と日本人学生とを交流させることで学部生の国際化を図る。3) 海外の主要大学との単位互換制度を充実するとともに、サマープログラム、インターンシップ、理学部学生選抜国際派遣プログラム等を強化し、双方向交流を活発化する。

東大は学習環境に恵まれた 素敵なキャンパス!

ジャネット・スヘリ
バンドン工科大学 / インドネシア

伝統的でありながら、 東大の人々はエネルギー!

ラリー・クウォック
インペリアル・カレッジ・ロンドン / 香港

東大は厳格なプログラムを課す
非常に真面目な大学という印象を
抱いていました。
でも、実際に来てみて、
真面目なだけではなく、
とても気さくな大学でもあると思います。

リンダ・リー
イエール大学 / 米国

東大の人は、
問題が起こるたびに
親身になってくれます。

ニッキル・ブラカシュ
インド工科大学ルーラーキー校 / インド

UTRIPをきっかけに
東大を知りました。
ここでの経験にワクワクしています!

オリバー・トーマー
オックスフォード大学 / 英国

この6週間で日本文化に対する
理解を深めたいと思います。

キラン・フィリップ
ケンブリッジ大学 / 英国

UTRIPを知るまでは
東大についてほとんど
知りませんでした。
でも、ある教授とUTRIPの話
をしているうちに、東大の革新的な
業績や学術の評価の高さを
知らされました。

ラヴィ・フェーゲル
ボストン大学 / 米国



UTRIP講義風景。プログラム期間中、理学系全専攻の教員による20コマの講義が行われる。
講義はすべて英語で行われ、理学部の一般学生も参加学生とともに聴講することができる



Interview

世界に「TODAI」の名を 広めていくために



相原博昭

大学院理学系研究科副研究科長
数物連携宇宙研究機構副機構長

理学系研究科における新しい試み、UTRIPはグローバル30（文部科学省が主導する国際化拠点整備事業）の取り組みの一環として浮上してきた構想でした。国際化を積極的に進め、大学院の留学生数を増やそうということで。教育・研究の質を高めるためにはダイバーシティ

（多様性）が大切。まず、大学院生の多様性を高め、いずれは学部生の多様性も高めたい。もちろん、教員の多様性が大切であるのは言うまでもありません。

従来も理学系研究科では海外の大学院生を呼ぶサマースクールをやっていましたが、学部の3、4年生を海外から呼ぶ

UTRIPを見つけるまで東大の名は聞いたことがありませんでした。でも調べると、世界的に素晴らしい大学で、特に科学分野での評価が高いことがわかりました。

ハリー・ビーソン
オックスフォード大学 / 英国

UTRIPに参加したのは研究に興味があったから。それに、プログラム内容が面白そうだったから。日頃から日本に行きたいと思っていたので、UTRIPはピッタリなプログラムだったんです。

テレス・モニカル
ノースウエスタン大学 / 米国

このプログラムが終わってもずっと付き合える友達を作りたい!

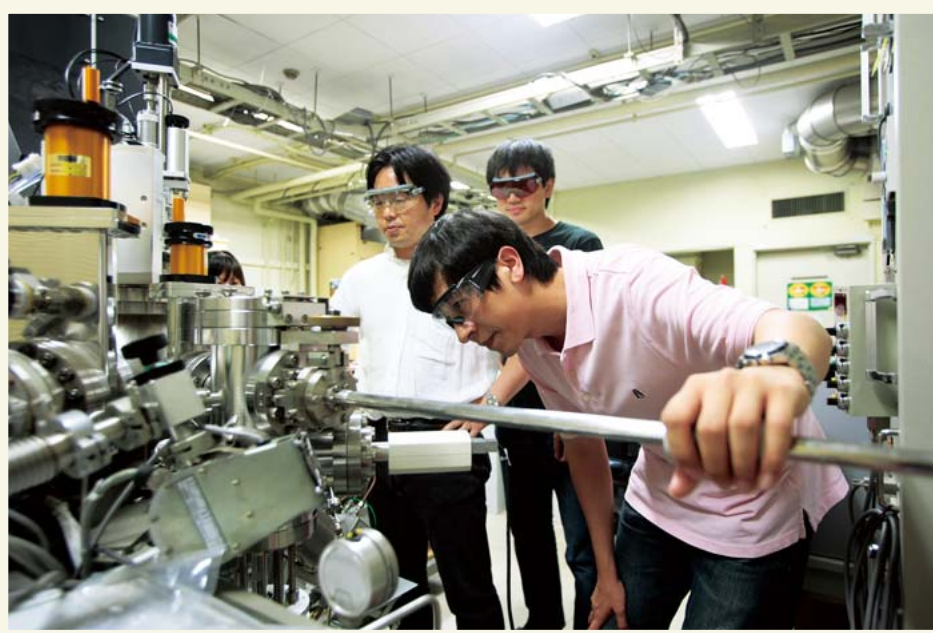
エリザベス・サン
ブリティッシュ・コロンビア大学
/ カナダ

東大は大学施設は素晴らしいし、皆、とてもよく勉強すると思います。

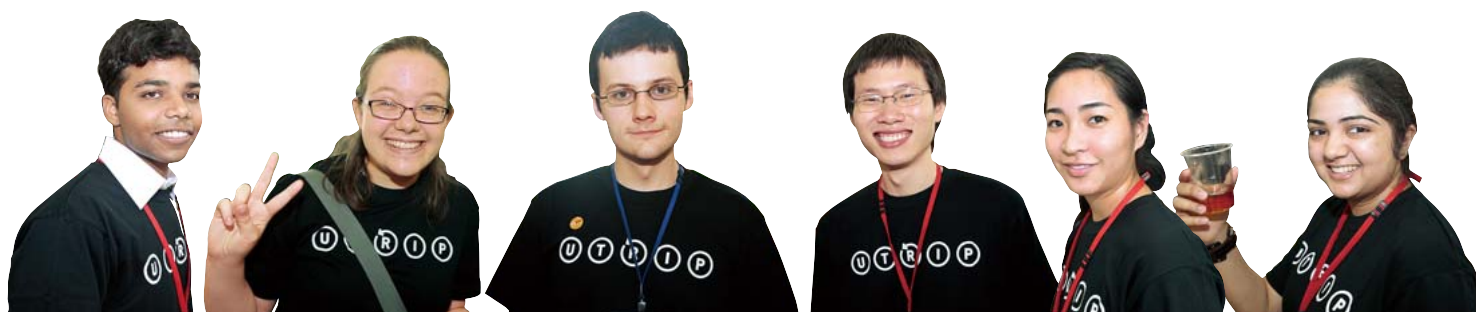
フェン・エー
バーミンガム大学 / 中国

理系学生として東大は世界トップクラスだということを知っていました。

シファット・S・ユサフ
ロンドン大学クイーンメリー校
/ バングラデシュ



午後、参加学生たちは希望する分野の研究室に赴き、研究や実験を体験する。参加学生一人一人に、TA(ティーチング・アシスタント)が付き添い、実習・実験を補助してくれる



サマースクールは今回が初めて。まず、実施して、今後の成果を見ていきたいと思っています。終了後には修了証を出し、この中から、来年、理学系の大学院を志望して合格する学生が出てきたら、2、3人に奨学金を出す事が決まっています。

現在は理学系研究科だけのプログラム

ですが、将来、全学に広がればいいなと思っています。ですから、名称に理学系の表記を入れず「University of Tokyo Research Internship Program:UTRIP」としたんですよ。もちろん、お金がかかることですので、いろいろ難しいことがあります。しかしながら、こういう企画を

長期的な視野にたって進めていくのは大切なことだと思っています。5年10年と続けていくことで、世界における東大の認知度も上がっていくし、海外の優秀な学生が東大に来てくれるようになる。ぜひ、長期にわたって展開していきたいと考えています。